

人材の配置について

八〇三 イ・ヴェ・スターリンへ

同志スターリンへ

同志スターリン!

私は、ロスコフについてきのう採択された決定*の合法性に異議をとる。理由は第一に、この決定は、慣例と規程に反して、十二時までに日程にのせられなかった。

第二に、文書があらかじめ中央委員に知らされていなかった。

第三に、この問題は二度審議されたのだから、なにも急ぐ理由はなかった。私は会議の前半には出席していたが、この問題が出てきたのは、まさに私が席をはずさなければならなくなったあとだったのだから、なおさらそうである。だから私は、この問題を総会にうつすことを主張する。総会まで一週間しかないのだから、なおさらである**。

ロゾフスキーの問題については、猶予された時間を利用して、必要な候補をもっと精をだして探すよう提案する*³。

われわれは、党として、すでに法外に多くの人手をコミンテルンのために、したがってまたプロフィンテルンのために、さいている。もしロゾフスキーが一人では十分満足すべきものでなかったのなら、新人を外国人のなかから連れてくるか、それでなければ、わが国ではそれ以外にはけっして使いようのない人、つまり、組織の仕事にも、実務の仕事にも、行政の仕事にも使えない人から連れてくるかすることが、必要である。だから、けっしてカリーニンをとってはならない。彼は、聞くところによると、ドンバスでかなり重要な仕事を始めたし、たしか、その仕事でかなりの成功をおさめている。トムスキーを簡単に任命することも、やはりけっしてやってはならない。なぜなら、彼は全ロシア労働組合中央評議会で、人手の不足からきわめて難渋している仕事で手いっぱいだからである。やむをえなければ、トムスキーとルズタークを任命するよう提案するが、そのばあい、彼らがこの新しい職務に一日半時間以上従事しないようにし、また、外国語に堪能で、トムスキーとルズタークに細大もろさず情報を知らせる能力のある、二人以上の秘書をぜひとも付けなければならない。私はこのような秘書を探すことを組織局か書記局に委任することを提案するが、そのばあい、これらの秘書が、わが党にとって必要な職務のどれ一つからも、けっしてはずされてはならない。

もしロートシテインのような人たちを利用していないのなら、それは明らかに、プロフィンテルンとコミンテルンの仕事のあり方にはなほだしい無秩序があることを示していることに、注意を喚起する。というのは、何といても、この人たちは長期の活動によって、たとえば旧『ノイエ・ツァイト*⁴』で、文筆活動に完全に適していることを証明したからである。秘書のしかるべき援助があれば、疑いもなく、この人たちはことのほか役に立つだろう。そしてしかるべき秘書はロシア人からではなく、外国人から採用すればいいし、またそうしなければならない。コミンテルンやプロフィンテルンのためにわが党から人手を汲みつくすことには、絶対に終止符を打つべきである。

適当な提案を中央委員会書記局と組織局の審議に付するよう提案する*⁵。

レーニン

事項訳注 P930

* 以前は積極的なメンシェヴィキであったエヌ・ア・ロシコフの追放をさす。ロシコフの問題は、党政治局の会議で再三審議された。1922年10月26日、政治局はロシコフを追放することを決定した。12月7日、政治局は10月26日の決定を変更して、ロシコフ追放の延期を決定し、メンシェヴィキの活動についての彼の論文、メンシェヴィキ党脱退についての彼の声明を、これに『イズヴェスチヤ』編集員ユ・エム・ステクロフの解説をつけて同紙に発表した。

* * 1922年12月14日、党政治局は、12月7日の政治局決定を取消し、ロシコフをプスコフへ追放し、また反ソ言動のありしだい彼をソヴェト・ロシアから追放することを決定した。

* 3 1922年11月30日、党政治局は、約10名の活動家を一週間以内にコミンテルンへ転属させることを組織局に委任した。

* 4 『ノイエ・ツァイト』（『新時代』）——ドイツ社会民主党の理論雑誌、1883年から1923年までシュトゥットガルトで出ていた。

レーニンが「旧」『ノイエ・ツァイト』といているのは、エンゲルスが同誌を援助していた1890年代なかばまでの時期をさす。

* 5 プロフィンテルンの問題について、党政治局は1922年12月19日、この手紙に述べられているレーニンの提案を採択した。

第45巻 P780-781 『イ・ヴェ・スターリンへ』

1922年12月8日に電話で口述

1965年に『レーニン全集』第五版、第54巻にはじめて発表

タイプした写しによって印刷